■源義朝 武将。頼朝の父。東国で源氏勢力を回復して長となったが、〈保元の乱〉勝利も〈平治の乱〉起こして敗死。

みなもとのよしとも
・・・・・・・・・・1123=

京都で、淡路守藤原忠清の娘を母に、源為義の長男に生まれる。

誕生した頃は、頼信・頼義・義家の3代で築かれた清和源氏の勢力が、義家の子義親の謀反で挫折した源氏勢力の低迷期であり、長男であるにもかかわらず、嫡子の立場を奪われて、

幼くして、父祖相伝の本拠相模国鎌倉に下向、郎等蒲田通清に養育され、

鳥羽院政始・1129= 6歳：

武家内昇殿始1132= 9歳：

崇徳天皇讓位1141=18歳：

やがて、非凡な才能を発揮、鎌倉を拠点にして活動、

為義頼長臣従1143=20歳：千葉氏の相馬御厨を侵略して郎等とし、続いて、鶴沼郷の大庭氏の大庭御厨に対して様々な仕掛けを試みるも無視されると、

・・・・・・・・・・1144=21歳：在庁官人を引き連れて、大庭御厨に乱入、庁宣を振りかざして、郎等とするなどして、“鎌倉の桶”を構え、上総介平常澄が後見人となって、上総曹司と称されるなど、東国での清和源氏勢力を回復して、上京。

・・・・・・・・・・1147=24歳：頼朝が誕生。
藤原季範の娘由良御前を正室に迎え、

頼長氏長者・1150=27歳：

・・・・・・・・・・1153=30歳：*鳥羽院の拔擢で、従五位下・下野守となり、河内源氏としては50年ぶりの受領昇進を遂げ、
為朝鎮西乱行1154=31歳：*為義の嫡子として家督を継ぎ、源氏の棟梁となる。

保元の乱・1156=33歳：*崇徳上皇・藤原頼長派と後白河天皇・藤原忠通派との対立が発端で保元の乱が勃発、平清盛とともに後白河派につき、大庭・千葉氏らを従えて、崇徳上皇の院御所である白河殿を攻め、勝利を収めるが、父為義や弟の頼賢・頼仲・為朝・為仲と一族の主要人物はすべて崇徳方につき、清盛に捕えられた父為義を引き渡される。父の処刑を拒むも、清盛が叔父忠正を斬ったことをもって後白河天皇は執行を迫り、ついには父が従者鎌田政清の他人に斬られるよりはわが子に斬られるほうがよいという提言を受けたため、七条朱雀大路で斬首、勝利を収めたが、一族の多くを失うことになった。また功によって左馬頭に任官、さらに昇殿を許されたが、後白河天皇から、平氏に比べて源氏を冷遇され、後白河への不信と平氏との対立を深め、当時の政界の実力者であった藤原通憲(信西)との関係も悪化。通憲の男子を婿にしようとしたが、これも拒絶され、通憲と対抗していた藤原信頼と結び、

平治の乱・1159=36歳：*平清盛と平氏一族が熊野詣でに出かけている間隙をねらって挙兵。これが平治の乱である。義朝と信頼はその前年から院政をはじめていた後白河上皇をその院御所三条殿に襲撃し、通憲の子の俊憲・貞憲を解官して、通憲自身をも自殺させた。二条天皇を手中にした信頼は除目を行ったが、義朝は乱の功により播磨守となっている。しかし、この直後に清盛は熊野から帰京し、ひそかに二条天皇を清盛の六波羅第に移し、後白河天皇も逃れてに和寺に入った。その直後に合戦となり義朝は敗北。近江国を経て東国に向かおうとしたが美濃国青墓で長子義平と別れ、次子朝長は病気のため自殺。

・・・・・・・・・・1160=37歳：東国に逃れる途中、尾張国知多郡野間て家人長田忠致のために鎌田正清ともども殺された。首級は京都にまで運ばれて東獄に集されている。